

山田養蜂場の社会貢献活動

中国・安徽省で初の植樹活動、広がる緑の繋がり

～日中ボランティア約 300 名参加、中国での植樹本数は、延べ 137 万本に～

株式会社 山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 社長：山田英生）では、2001 年 10 月より横浜国立大学との共同研究により中国・内モンゴル各地で、植生調査を開始し、その調査をもとに、植樹活動を実施してきました。そして中国での植樹活動 8 年目となる本年は、内モンゴルでの成功体験をもとに中国・安徽（アンキ）省で初となる植樹祭を行いました。日本国内から 38 名、中国現地の学生等約 270 名のボランティアで計 4 万本の植樹を実施しました。これまでに行った内モンゴル自治区内での植樹活動をあわせると、植樹参加者は 2,285 名、植樹本数は 137 万本を超えます。

植樹の指導は、植物生態学の権威である、横浜国立大学名誉教授の宮脇 昭（みやわき あきら）先生と、藤原 一繪（ふじわら かずえ）先生にして頂きました。



(写真) 植樹をする宮脇先生（中央右）、弊社代表（中央左）、現地の高校生

- 植樹日 6 月 18 日（土）午前 9 時 30 分～11 時
- 参加者 日本側参加者 38 名 中国側参加者約 270 名
- 植樹場所 中国・安徽（アンキ）省の淮北（ファイベイ）市内

本件に関するお問い合わせ

株式会社 山田養蜂場 広報室 寺田、木村
〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場 194
TEL:0868-54-1906（月～金 9:00～17:30、土日祝除く）
FAX:0868-54-3346 <http://www.3838.com>

■実施概要

6月17日	金曜日	午後	宮崎昭先生、藤原一繪先生による講演会
18日	土曜日	午前9時30分～11時 午後	植樹祭 参加者全員での懇親会

■今回の植樹内容 **合計 40,000 本**

中国・安徽省の淮北市内にアベマキを中心に、イタヤカエデ・ハネミエノキ・チョウセンエノキ・モクゲンジ・カイノキ・ワルテリミズキなど7種類4万本の中低木を混植。

■活動実績（中国）

年	参加人数	内モンゴル自治区			安徽省	植樹総合計
		フフホト市・林西県	トプトサキシ市 生態園区建設			
2001	—	植生調査	—	—		
2002	—	植生調査	—	—		
2003	—	植生調査	—	—		
2004	300名	20,000本	1,030,028本	—		
2005	300名	20,000本	5,150本	—		
2006	300名	50,000本	5,150本	—		
2007	270名	50,000本	—	—		
2008	280名	50,000本	—	—		
2009	240名	50,000本	—	—		
2010	290名	50,000本	—	—		
2011（本年）	300名	—	—	40,000本		
合計	2,280名	290,000本	1,040,328本	40,000本	1,370,328本	

■安徽省での植樹の経緯

株式会社 山田養蜂場では、砂漠化が進む内モンゴルの緑を復活したいとの思いから、横浜国立大学と共同で2001年より植生調査を行い、植樹場所、各地域の主木を選定し植樹活動を行ってきました。結果、現地の人たちの手で緑を保護し、増やす活動を継続的に行えるようになり、8年目にあたる本年は、長年にわたる森林の伐採により、豊かな自然環境が失われつつある中国・安徽省淮北市にて、植樹を行うことを決定しました。

今後も、持続的な植樹活動の基盤を作っていくように支援を行っていきます。

(地図) 安徽省



■参加者の声

・岡山県在住、男性

「少々木を植えただけでは砂漠化は防げないかも知れませんが、3年前に林西県で植えた苗木の中には、自分の腰ほどまで成長しているものもあります。植樹の効果は上がりつつあるな、と実感しています。

また、植樹をともに行う仲間に、学生や、現地の方たちがいます。人々が、だんだん植樹に心を向けて、環境を良くしようという気持ちが徐々に大きくなっています。行政が頑張ることはもちろん大事なことです。市民一人ひとりが、心と気持ちを変えていくことが、とても大事だと思いました。」

・2011年度 新入社員、男性

「植樹は今回が初めてで、宮脇先生の話は聞いていたが、実際に会って、植樹を实践したいと思い、ツアー参加を決意しました。

植樹会場は、斜面が急で大変でしたが、現地の学生たちと一緒に植樹をしていくととても楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。天候にも恵まれたので、よかったです。」

■今後の展望

安徽省淮北市では、エコシティ構想が進んでおり、緑と人が共生できる都市を目指しています。

今後も、淮北市での植樹活動と啓発活動などを行い、持続的な植樹活動基盤を作っていくように支援を行っていきます。また、日本人と現地ボランティアの方々との交流も深めていこうと考えております。

【宮脇 昭（みやわき あきら）先生プロフィール】

1928年生まれ。国際生態学センター長。横浜国立大学名誉教授。

ドイツ国立植生園研究所で潜在自然植生理論を学び、

世界を舞台に国内外、1700ヶ所以上に、合計4,000万本を超える植樹を行ってきた。

1991年「日本植生誌」の完成で朝日賞受賞

1992年 紫綬褒章受賞

2006年 ブループラネット賞受賞

【藤原 一繪（ふじわら かずえ）先生プロフィール】

1944年生まれ。横浜国立大学卒業。

フランス中央研究機関（CNRS）、給費研究員（リール大学）、横浜国立大学環境科学研究センター助手などの経歴をもつ。

現在、横浜国立大学名誉教授、横浜市立大学特任教授。

宮脇先生と共に国内外での森作りを指導。

著書に「混源植物」「環境問題を考える」（共著）「東南アジアの植物と農林業」（共著）

「日本植生誌」全10巻（共著）など